月　日　名前　　／50点

【答え】

【中3】国語 文章テスト　説明文 1/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちの暮らしは、手間を減らす方向に進んできた。ボタン一つでごはんが炊け、画面を押せば品物が家に届く。手間が減った分だけ、時間にゆとりが生まれた。これは、たしかに大きな進歩である。

しかし、手間を省くとき、私たちは何を一緒に手放しているのだろうか。たとえば、手紙を考えてみよう。手紙を書くには、便せんを選び、言葉を考え、字を書き、切手をはって出す必要がある。メッセージを送るのに比べれば、ずいぶん手間がかかる。だが、受け取った人は、その手間の分だけ、相手が自分のために時間を使ってくれたことを感じ取る。手紙の価値の一部は、書かれた内容ではなく、かけられた手間そのものにあるのだ。

料理も同じである。できあがった料理を買えば、手間はかからない。けれども、自分で野菜を切り、火の強さを調節しながら作ると、食べ物がどのようにできていくのかが分かる。手間とは、物事の成り立ちに触れる時間でもある。手間を省けば、結果は手に入るが、その過程は見えなくなる。

もちろん、すべての手間を取り戻すべきだと言いたいのではない。省いてよい手間はたくさんある。大切なのは、手間を省くたびに、そこで何を手放したのかを意識することだ。何を手放したのかを知っていれば、本当に必要なときには、あえて手間をかけることを選べる。

便利さは、私たちに時間を与えてくれる。その時間を何に使うかを考えるとき、あえて手間をかけることも、選択肢の一つとして残しておきたい。手間の中には、効率だけではかれない何かが、たしかにふくまれているのである。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　筆者は、手紙の価値の一部はどこにあると述べていますか。本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

か	け	ら	れ	た	手	間	そ	の	も	の					

問二（十点）　筆者は、料理の例をもとに、手間とはどういう時間だと述べていますか。「～時間」につながるように、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

物	事	の	成	り	立	ち	に	触	れ	る					

問三（十点）　「すべての手間を取り戻すべきだと言いたいのではない」とありますが、筆者が大切だと考えていることとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　できるだけ多くの手間を省き、時間のゆとりを増やすこと。

イ　手間を省くたびに、そこで何を手放したのかを意識すること。

ウ　手紙や料理など、昔ながらの方法だけを使うこと。

エ　便利な道具を使わずに生活すること。

イ

問四（十点）　「手間を省けば、結果は手に入るが、その過程は見えなくなる」とありますが、どういうことですか。料理の例にふれて、六十字以内で説明しなさい。

で	き	あ	が	っ	た	料	理	を	買	え	ば	食	べ	る	物	は	手	に	入
る	が	、	食	べ	物	が	で	き	て	い	く	様	子	は	知	る	こ	と	が
で	き	な	い	と	い	う	こ	と	。										

問五（十点）　この文章の論の進め方として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　便利さの利点を認めたうえで、手紙と料理の例から手間の価値を示し、手間を選べるようにしておくことを提案している。

イ　便利な道具の危険をいくつも挙げ、使うのをやめるべきだと主張している。

ウ　手紙と料理のどちらがより手間がかかるかを比べ、結論を出している。

エ　昔と今の暮らしを数字で比べ、今の暮らしのほうがよいと述べている。

ア

月　日　名前　　／50点　　合計　／100点【答え】

【中3】国語 文章テスト　物語文 2/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

進路希望調査の紙は、もう一週間も机の引き出しに入ったままだった。第一志望、第二志望。四角い空らんを見るたびに、ぼくは引き出しを閉めた。

兄は、ぼくと同じ中学から、地元でいちばんの進学校に進んだ。母は、ぼくも当然そこを受けるものだと思っている。先生も、成績を見て「十分ねらえる」と言った。ぼくだけが、その学校の名前を書く手を止めていた。

ぼくには、行ってみたい学校があった。電車で一時間かかる工業高校だ。夏休みに兄の自転車を直したとき、分解した部品が元どおりにはまっていく感じが、たまらなく楽しかった。あの学校には、機械を一から組み立てる授業があると聞いていた。

けれども、それを口にする勇気がなかった。「もったいない」と言われるに決まっている。そう思うと、自分の気持ちまで、もったいないもののように思えてきた。

提出の前の晩、ぼくは台所にいた兄に、ぽつりと聞いた。

「兄ちゃんは、なんであの高校にしたの。」

兄は、冷蔵庫を開けたまま少し考えた。「みんながそうしろって言ったからかな。」それから、ぼくの顔を見て付け足した。「別に後悔はしてないけど、自分で決めたって感じも、あんまりないんだよな。」

ぼくは黙って部屋にもどり、引き出しから紙を取り出した。第一志望の空らんに、工業高校の名前を書いた。書いてみると、思っていたよりも字はまっすぐだった。

明日、母には何と言おう。まだ言葉は決まっていない。けれども、この一行だけは、自分で決めたと胸を張って言える気がした。ぼくは紙を丁寧に折って、かばんにしまった。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　ぼくが工業高校に行きたいと思うきっかけになった出来事を、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

夏休みに兄の自転車を直した

問二（十点）　ぼくは、工業高校に行きたいと言えば、周りから何と言われると思っていましたか。本文中から六字で抜き出しなさい。

もったいない

問三（十点）　兄の「自分で決めたって感じも、あんまりないんだよな」という言葉を聞いて、ぼくが気づいたこととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　兄のように、周りの言うとおりにするのがいちばん安全だということ。

イ　周りに言われて決めるのではなく、自分で決めることが大切だということ。

ウ　兄は進学校に行ったことを後悔していて、かわいそうだということ。

エ　兄に相談しても、何の役にも立たないということ。

イ

問四（十点）　「思っていたよりも字はまっすぐだった」とありますが、ここからぼくのどんな気持ちが読み取れますか。五十字以内で説明しなさい。

迷っていた志望を自分で決めて書いたことで、気持ちが定まり、落ち着いた気持ち。

問五（十点）　最後の段落から読み取れる、ぼくの気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　母に反対されるのがこわくて、紙を出すのをやめようと思っている。

イ　母にどう伝えるかはまだ決まっていないが、自分で決めた志望には自信を持っている。

ウ　母はきっと賛成してくれると信じて、安心している。

エ　工業高校に決めたことを、早くも後悔し始めている。

イ

【中3】国語 文章テスト（100点）　説明文 1/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：かけられた手間そのもの

解説：第二段落の最後「手紙の価値の一部は、書かれた内容ではなく、かけられた手間そのものにあるのだ」が根拠。「内容ではなく」と対比されている。

問二（十点）　答え：物事の成り立ちに触れる

解説：第三段落の「手間とは、物事の成り立ちに触れる時間でもある」が根拠。

問三（十点）　答え：イ

解説：直後の「大切なのは、手間を省くたびに、そこで何を手放したのかを意識することだ」が根拠。ウ・エは「すべての手間を取り戻す」側の考えで、筆者はそれを否定している。

問四（十点）　答えの例：できあがった料理を買えば食べる物は手に入るが、食べ物ができていく様子は知ることができないということ。

解説：第三段落の「できあがった料理を買えば」「自分で～作ると、食べ物がどのようにできていくのかが分かる」を、「結果」と「過程」に当てはめてまとめる。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①できあがった料理を買えば、食べる物（結果）は手に入る

②食べ物ができていく様子（過程）が分からない

問五（十点）　答え：ア

解説：第一段落で便利さを「大きな進歩」と認め、第二・三段落で手紙と料理の例、第四・五段落で「あえて手間をかけることも、選択肢の一つとして残しておきたい」と提案している。

【中3】国語 文章テスト（100点）　物語文 2/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：夏休みに兄の自転車を直した

解説：第三段落が根拠。部品が元どおりにはまっていく感じが楽しかったことが、機械を組み立てる授業への興味につながっている。

問二（十点）　答え：もったいない

解説：第四段落の「『もったいない』と言われるに決まっている」が根拠。成績で進学校をねらえるのに、という周りの見方を予想している。

問三（十点）　答え：イ

解説：兄の言葉のあと、ぼくは黙って工業高校の名前を書き、「自分で決めたと胸を張って言える」と感じている。ウは兄の「別に後悔はしてない」と合わない。

問四（十点）　答えの例：迷っていた志望を自分で決めて書いたことで、気持ちが定まり、落ち着いた気持ち。

解説：一週間も書けなかった空らんに、ついに自分の意思で書いた場面。字がふるえずまっすぐだったことが、心の落ち着きを表している。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①迷っていた志望を、自分で決めて書いた

②気持ちが定まり、落ち着いた（迷いがなくなった）

問五（十点）　答え：イ

解説：「まだ言葉は決まっていない。けれども、この一行だけは、自分で決めたと胸を張って言える気がした」が根拠。紙を丁寧に折ってかばんにしまったのは、出すつもりだから。